

仙台日本語アカデミー

自己点検・評価

2025.5

各項目の評価は、以下の分類とし、□に記号をいれること。

A： 達成しており引き続きこの状態を保つ。

B： ほぼ達成しているが、さらに達成度を高める。

C： 達成に向けて努力している。

D： 達成できていないため、取り組みを検討中である。

日本語教育機関名： 仙台日本語アカデミー	
点検・評価項目	
理念・教育目標	
〈理念・ミッション〉 ・日本の文化・習慣・マナーを取得し、日本人と共生して日本社会に貢献可能な人材の育成。 ・日本語教育を通じて国際交流等により、様々な国の人々と平和で安心な世界の創出に共感できる人材の育成	A
〈教育目標〉 ・日本語でのコミュニケーション能力を取得できる教育の実施。 ・豊かな人間性を育み個性豊かな教育の推進を図り、学ぶ力を通し進学への意識づけを推進。	A
〈育成する人材像〉 ・日本社会に適応し自己実現へ努力する人材	A
1. 学校運営	
1.1 日本語教育機関の告示基準に適合している。【注】	A
2. 入学者の募集	
2.1 教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示している。これらは想定する入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	B
2.2 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。	A
3. 入学者選考	
3.1 入学者の選考に関し、学習能力、勉学意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料で確認する等、適切な方法により確認している。	A
3.2 入学者の選考に当たっては、学校関係者（職員等）が面接等を行うよう努めている。	A
4. 納付金	
4.1 入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、及び学費以外に入学後必要な費用を募集要項等に明記している。	A
4.2 関係諸法令に基づいた学費返還に関する規定を定め公開している。	A

4.3	上記 4.1 及び 4.2 については入学志願者、在籍者及びその経費支弁者の理解できる言語で情報公開に努めている。	B
5.	学生支援	
5.1	日本社会を理解し、適応するための取組を行っている。	A
5.2	進路指導を適切に行っている。	A
5.3	重篤な疾病や傷害及び交通事故のあった場合の対応を定めている。	A
5.4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。	A
5.5	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的にしている。	A
6.	教員	
6.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定めている。	A
6.2	教職員の教育力及び支援力強化のための研修等を実施するとともに、他機関の実施する研修会等への参加を促している。	B
6.3	教員評価を適切に行っている。	A
7.	教育活動	
7.1	理念・教育目標に合致したコースを設定し、カリキュラムを体系的に編成している。	A
7.2	授業開始前までに学習者の日本語能力を試験等で判定し、適切なクラス編成を行っている。	A
7.3	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	A
7.4	授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。	A
7.5	理解度、到達度の測定と評価を実施期間中に適切に行い、その結果を的確に学生に伝えている。	A
7.6	授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行っている。	B
8.	教育施設	
8.1	教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、語学教育に必要な遮音がなされている。	A
8.2	授業時間外に自習できる部屋の確保に努めている。	B
8.3	法令上必要な設備等を備えている。	A
9.	安全・危機管理	
9.1	対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	A
9.2	感染症発生時の措置を定めている。	A
9.3	気象警報発令時の措置、災害発生時の避難方法等を定め、教職員及び学生に周知している。	A
10.	法令の遵守等	
10.1	法令遵守に関する担当者を定めている。	A
10.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。	B
10.3	個人情報保護のための対策をとっている。	A
10.4	1. 地方出入国在留管理局、その他関係官公庁、日本語教育振興協会等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A

本校は開校後の歴史は浅く約4年が経過し第二期の卒業生を今春輩出している。

在校生徒は、85名である。教育現場においては、日本社会における文化への理解として、郊外学習等を実施してきている。又、生活上のルールや社会人としての規範等人としての基本姿勢の確立も教育の一環として折に触れ生活指導に加え行っている。授業に当たっては、チームとして授業の在り方について、均質の教育を確立すべく必要に応じ研修・学習会を実施している。又学内の会議において、情報交換を行う中で、これらの課題等を検討している。対外的な研修の場を活用する等各人のレベルアップにより引き続き教学課題を自主的に取り組むこととしている。学習面の強化に向け日ごと、定期休み期間に宿題や小テスト等を課し学習面のレベルアップに努めてきている。学生の感性を生かし一人一人に焦点をあて、日々学習習慣の定着指導と共に教師の在り方等自己啓発、改革も必要とされる。学校への評価と共に最前線の教師への信頼が良き学校づくりの基本となることから、学生からの問いには、真摯に向き合い、最善の指導を目指している。生徒から信頼があつてこそ教育の目的が達成される。在籍管理については指標を踏まえ、出席率の悪い学生に対し折に触れ必要な指導を行ってきている。又アルバイトの目的外活動については、規定時間の厳守について定期的に指導確認徹底を図っている。学校運営面については、教学教務課題の共有、教育環境の一層の充実、整備等が求められることから運営面の一層の努力を続けている。

責任者

仙台日本語アカデミー校長 小野寺初正

実施期間 2025年5月